

さざなみ 国語教室

さざなみ国語教室
第521号 2025年 8月25日
発行者代表 吉永幸司
連絡先 大津市柳川2-11-5
TEL 077-522-1008
発行所 滋賀児童文化協会
NPO 現代の教育問題研究所

あるドリルのこぼれ話

楠元 順子

「ひらがなは、全ての始まりです。なぜなら、ひらがなを組み合わせて、身の回りのもの全てを表すことができるからです。〈中略〉『す』と『き』を組み合わせて『すき』。ほら、好きなものの名前も書けるし、好きな気持ちも伝えられます。」

これは、吉永幸司先生にご監修いただいた『ポケモンずかんドリル 小学1年生ひらがな・カタカナ』の序文の一節です。

文字の可能性や、前向きな気持ちを言葉で伝えることの大切さを、先生が温かく包みこむような口調で語ってくださいています。

全国のお子さんと親御さんから大変喜んでいただいているこのドリル、お陰様で昨年は大手取次の年間ベストセラー総合ランキングでも10位になりました。しかし発売までの道のりは、決して順風満帆ではなかったのです。

企画立ち上げ当初、キャラクターの名前がカタカナ表記であることを活かすため、ひらがなとカタカナの同時学習を提案したところ、周りの反応は「教科書の学習順と違うものは敬遠される」「他社のドリルに合わせた方が無難」と芳しくありませんでした。

反対の声をなんとか押し切ったものの、企画案をまとめ終わるころにはすっかり弱気に・・・

しかしおそるおそる先生にその案をお見せしたところ、開口一番「これはすごいね!」と、にっこり笑ってくださいました。そのうえで、文字やイラスト、書かせるときの注意点などについて、一つ一つ細やかに指導してくださいました。

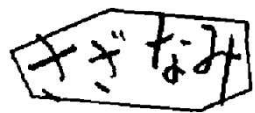
「セオリー通りでなくても子どもたちが喜んで学べるのが大事」という柔軟さと、教材のクオリティに対する妥協なしの厳しさ。お子さんたちに向けた教材作成でしたが、実は私自身がいちばん、先生から多くのことを学ばせていただいたように思います。

冒頭に引用した序文は、「なぜ、ひらがなやカタカナを学ぶのか」という私の問いに対して、先生が答えてくださったものです。

読んだお子さんが、仮に今は深い意味を理解できなくとも、何年後かに、「ああ、こういうことか」と実感してくれたら、と願っています。

この夏に定年退職いたしますが、編集者人生最後の仕事で吉永先生にご指導いただけたことは、望外の幸せでございました。ありがとうございました。

(株式会社小学館第三児童学習局 エキスパートプロデューサー)



▼滋賀県教育会の機関紙「滋賀教育会」(令和7年6月号)の巻頭は徳田寿氏(愛知郡愛荘町教育長)の「次期学習指導要領に期待することー柔軟な教育課程ー」編成への挑戦であった。愛荘町では、文科省より昨年度から教育開発学校の指定を受け秦荘西小学校を中心に「柔軟な教育課程」を編成。中教審において事例発表したこと併せて文科省の提案の紹介から始まる記事であった▼具体的には、一単位時間を四十分にする。そのことで一二七コマを生み出し「学校裁量」として活用するというもの。生み出した時間を①自己調整力の育成②放課後の余白の時間とし活用しているとのこと。自己調整力育成取り組みでは「自己選択学習」の時間を設けたり土日の生活計画を立てる「生活プログラミング」生み出したこと等々、学ぶことが多かった▼従来の授業時間に比べて短縮されることで集中力が持続しやすくなり、学習内容への理解が深まるという実践の成果を昨今目にすることは多くなった。加えて、教育活動全体の時間管理が効率化され、特別活動や個別対応の時間が確保しやすくなるであろう。特に、家庭の教育力との連携を意図した「生活プログラミング」の着眼は学習習慣・学習力の基礎力を育成する時間として有効に働くことを期待したい。(吉永幸司)

ふわふわ言葉 弓削 裕之

友だちにやさしくできるクラス
元気な声があふれるクラス
だれにでも安心して話せるクラ
ス

友だちと協力できるクラス
みんなが楽しくすごせるクラス

三年生のはじめ、「どんなクラ
スにしたいか」を書いた。「ふわ
ふわ言葉を言うクラスにしたい」
と書いたAさんは、その理由も考
えていた。

友だちにやさしくしてもらっ
て、「わたしも友だちにやさしく
してあげよう。」と思ったら、つ
づいていくのでもいいと思います。

Aさんは、思いやりの輪が広が
るのをイメージしているのだなと
思った。作文のかたわらには、辛
そうな友だちに「だいじょうぶ」
と声をかける絵が添えられてい
た。

大じょうぶ ありがとう がん
ばれ 上手だね ごめんね はく
手 いっしょに遊ぼ
大好き 手伝ってあげる ナイ
ス すごいね 親友 ○○さんな
らぜったいできる
おはようございます

Aさんが一学期の振り返りで書
いた、「友だちとすごす中で心
のこっている言葉」だ。いつも穏
やかに過ごしていて、友だちの良
いところを紹介してくれるAさ
ん。たくさんの言葉を覚えてい
るのは、Aさんが友だちを大切に
している証拠だ。

他の子も、いろいろなふわふわ
言葉を思い返していた。

お道具箱の中、きれいだね。

この言葉を書いた子は、振り返
りプリントの「せい長したこと」
に、「お道具箱を整えられた」と
綴っていた。友だちにもらった言
葉で、「できるようになった自分」
を発見できたのかもしれない。

フライできるようになったん
だ。
すごい。ドンマイ。次、当てよ
う。

これは、ドッジボールでの言葉。
ルールをめぐって衝突すること
もあるが、それでもみんなが「ドッ
ジボール大好き」なのは、こんな
言葉のおかげに違いない。
二学期も、たくさんのふわふわ
言葉が生まれそうだ。

(京都女子大学附属小学校)

その時の子ども 畑中 翔太

6月末から水泳の学習が始ま
り、わくわくした気持ちの子ども
達。3年生は初めての大プールで
ありまた特別な気持ちだ。いつも
忘れ物をしている子も、水泳の準
備は忘れまいと気合が入っている。

そんなある日、大好きなプー
ルが中止になるほどの雷雨に見舞
われた。楽しみにしていた子ども達
は落胆し、わめいている子や、や
る気無くしている子もいた。魅
力的なものを奪われた気持ちが素
直に溢れ出ていた。

その時、ピカッと窓の外が光り、
直後にドーンという音がした。「キ
ャー」と、と叫ぶ子。窓の外を指
差す子。興味が一気に雷に移った。
ゴロゴロという音が続く。

私は、いつもなら子ども達を静か
にさせて、着席を促し、学習を進
めようとする。しかし、その時は
雷の音に対する子ども達の反応を
愛おしく思った。子どもたちのこ
ろころと変わる気持ちや様子は素
直であり、何より何かに夢中にな
っている姿を大事にしたかった。

私は、チョークをとり黒板に詩を
書いた。

C「先生何書いているの。ごろごろ
ごろごろ。」

C「先生は詩を書いているんだよ。」

C「雷の詩や。『キャーッ』てA
ちゃんさつき言ってた。」

T「みんなも、雷の詩つくってみ
ようか。」

そう言って子ども達と楽しく詩の
創作に入っていた。
ある瞬間に生きた教材が転がって
いるかもしれない。そして、その
時の子どもが興味をついている姿を
大切にしていきたい。
(作品の一部紹介)

みんなの歌

ゴロゴロかみなりの歌
ぐらぐらたてものの歌
ピカピカでんきの歌
ザーザー雨の歌

こわいかななり

ゴロゴロゴロ

チカ

びく

ドーン

キャー

ポタポタ

きれいな虹

シヤラライン

太陽さん、こんにちは

ピカピカ

ドンドン

ピカッ

ゴロゴロゴロゴロ

キャー

ピカピカ

ドンドン

ゴロゴロ

ドッカン

エー

ザー

びくっ

はーあんしん

(大津市立田上小学校)

書くことと歌うこと

少徳 信

先日、県音研が毎年主催しておられる実技講座(歌唱)に参加した。講座はいきなり「ひのまる」

の歌から始まった。音を外さないように、また歌詞を間違えないように慎重に歌った。ぼちぼちうまく歌えたかなと思っていると、さっそく講師の先生から指導が入る。「とても丁寧に上手に歌えています。でも、今の歌で『歌ってよかったな』と思った人はいましたか?」。受講者は私を含めて何人もいたのだが、誰も手が上がらなかった。歌うとは何なのか、その正しい意識をもつところから指導が始まった。細かいところは省略するが、端的に表すとすれば、歌う時の大切な意識とは「感情を能動的に表現すること」であるそうだ。「ひのまる」でいうと、

ピアノの声にしていく指導をする」と教わった。「ここは少し優しく歌うんですよ」と指導していた自分が恥ずかしくなるが、実際に歌ってみると、やはり響き方が違ふと素人目にもわかるほどだった。

そのようにあつという間の一日だったが、歌の指導で教わったことは書くことと結びつくものばかりではないだろうかと感じた。書くことも歌うことも自分の感情や思いを言葉に乗せるという点では共通している。では、自分自身の書くことの指導の中で、美しい光景や豊かな経験から得た感動をありありと思い起こさせながら書かせたことはあつただろうか。書きたいと思ったことを心ゆくまで思いきり書かせたことがあつただろうか。ただ「中」につなげるための「はじめ」や形だけの「終わり」としての書き方を指導していなかっただろうか。そのような指導はまさしく「音を外さないように歌わせる」指導だったのだろう。

(彦根市立高宮小学校)

学び続ける学校図書館

川端 由起

8月8日(金)、近畿全国学校図書館研究大会において、分科会の司会を行ってきました。テーマは、「主体的・対話的で深い学びを実現する学校図書館」です。内容としては、滋賀県小学校教育研究會学校図書館部会が毎年行っている、授業活用部会と図書館経営部会の紹介と、授業活用部会の中での実践の取り組み例を紹介しました。

授業活用部会での実践例は、副題「並行読書と読書記録で意欲を高める取組の工夫」です。さざなみでも、並行読書は他の先生が長年取り組まれ、その有用性も示してこられてきました。本大会では、授業者の先生への助言の時に、並行読書の意義と図書館活用について2つの実行課題について助言がされました。

1つ目は、つけたい力があつてこそその図書室利用をしていくべきだということ。読書をすることは推進していくべきことですが、「本を借りよう」だけでは、子どもたちは、自分好みの好きな本を借ります。本単元ではどういう力をつけたいのか。三年とうげ

なら、指導内容は、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと」とあります。よって、この指導内容が盛り込まれている本を探して、子どもたちに読んでもらう必要性が出てくるのです。

2つ目は、目的があるからこそその図書館利用だということです。説明文において、例えば筋道の通った原因と結果を書かせたい。そのために並行読書をして、理論と手法を子どもたちに覚えさせ、習得させるのです。

近畿大会の会場の近江八幡市立桐原小学校では、メディアセンターも併設されています。ここでは、調べ学習をしている最中や、調べ学習が終わった後、報告会をする時になど使用されるみたいです。桐原小学校の図書館の役割は、①読書を楽しむ②授業の活用③対話できるメディアセンター、この3つの機能を兼ね備えているそうです。読書の幅を広げ、その質の向上も大切ですが、図書館の機能を存分に生かしながら、日々の国語や総合の学習で利用し、子どもたちの言語活用の力を上げていきたいです。

(草津市立志津小学校)

第6回

近江の子ども

俳句教室《対面》

好光幹雄

第6回 近江の子ども俳句教室（対面）7月26日キウリエ草津
主催…NPO法人現代の教育問題
研究所（理事長吉永幸司）
後援…滋賀県・滋賀県教育委員会

猛暑、炎暑、熱暑、極暑、酷暑
 ・ ・ ・ の最中、遠くは大阪からも
 児童生徒と保護者の方々のご参加
 をいただき、第6回近江の子ども
 俳句教室〈体面〉を開催しました。
 冒頭、理事長吉永幸司先生の挨拶

撈の中、興味深い話がありました。昨今、A Iの発達が目覚ましく便利なのは言うまでもない。しかし、ただ一番苦手でもう少しA Iに勉強してもらわないといけないのが俳句であると。つまり俳句の添削や句評をさせても字面だけのことしかできない。人の心、俳句の心が全然分かっていないのですと。

そんな吉永先生のお話もあり、俳句の指導では、五感を使って感じることの大切さ、そして感じたことを自分の言葉で表現することに力点を置きました。

ワークシートの「夏の〇〇〇をさがそう」で、「夏の不思議をさ

がそう」「夏の花をさがそう」「夏の生き物をさがそう」「夏の食べ物进行をさがそう」というように各自でテーマを決め身近な生活の中から「夏さがし」をして、そこから季節の話へと進みました。

集まつた言葉は、ひまわり、花火、かき氷、冷やし中華、蟬時雨・・・。ひまわりや花火は見て夏らしさを感じますね。かき氷や冷やし中華は味わって感じますね。蟬時雨は聞いて感じますね。視覚、味覚、聴覚・・・。暑くても聞いて涼しさを感じるものに風鈴がありますね。目を閉じてこの風鈴をの音を聞いてみましょう。

具体物を用意して、五感を通して感じるこの大切さを実感し、句作へと進みました。

滋賀県知事賞

けんかする入道雲と青い空
京都女子大学附属小3年 二上翔伍

滋賀県教育委員会教育長賞

陽炎が夕日をゆらすアスファルト
大津市立瀬田中1年 藏野圭一郎

入選

おつきさまキラキラきれい
だな

京都女子大学附属小2年 上田沙良

空蟬よお前はいつの忘れ物

吹田市立吹田第一中1年 鶴田淳悟

海よ海あつい夏がやって来た

滋賀大学附属小3年
山田巴絵

着物買いせんすあおいでお祭へ

京都女子大学附属小3年 榎原健心

ハスの花。ピンクや白がかわいいね
大津市立瀬田小4年 藏野史織

夏休み線香花火友達と
大津市立膳所小4年 石川未来

夏の空打ち上げ花火夜の虹
大津市立瀬田小4年 村上朋香

セミとって一週間でなぜしぬの
京都女子大学附属小4年 浮村聡一

太陽に向かって歩くひまわりと
東近江市立八日市北小5年 山脇二葉

木の枝で蟬の合唱響き合う
野洲市立北野小5年 山本悠太

手花火の香りなつかし祖母の家
野洲市立北野小5年 福永彩乃

この度も滋賀県知事三日月大造様、滋賀県教育委員会教育長村井泰彦様よりご後援を賜りました。厚く御礼申し上げます。深謝。

第6回近江の子ども俳句教室
〈投句部門〉は十月から募集予定。

行間に生きる証や蝉時雨 幹雄

(近江の子ども俳句教室実行委員長)

編集後記

は(▼
「五7
第二月
13〇例
回回会
近」

江の国実践研究会」を開催した。会場はキラリ工草津（草津市立総合交流センター）。研究主題「主体的・対話的で深い学びのある学習活動づくり」で、不易と改革の時代の間で求められること」と主として、第2学期教材の研究と授業構想が主な研究内容であった▼低学年部会の実践提案者は、川部長人（湖南市立菩提寺小学校）研究教材「くじらぐも」実践協力者北川雅士（滋賀県総合教育センター）。高学年の実践提案者は柴原茜（滋賀大学教育学部附属小学校）研究教材「くんぎつね」実践協力者川那部隆徳（栗東市立大宝小学校）研究会をするという形式。分科会では教材研究と単元指導計画を考えるというもの。詳述すると、今回の研究会で授業の構築を共同で考え、実践授業提案者である。2学期の実践をするものもある。実践をした授業の記録や改善点など、次の研究会（令和8年1月31日予定）に報告するというものである▼教材「くじらぐも」では、音読と視写を主とする学習活動を考えることをもにした授業を考えた。教材「くんぎつね」では、校内の音楽会で発表という機会を活かすという考えのもと、台詞や気持ちを深め方、学習活動に考えを交流した。分科会で話題になったことや考え方を全体会で共通理解の場を設けた▼講話は「不易と改革の間で、今こそ子どもを不易とした授業実践を」（講師は吉永幸司）で授業改善について提案をした。（敬称略）▼巻頭には、楠元順子さんから玉稿を頂きまして。深謝。

(吉永幸司)